

「県立図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立図書館にはどのような利用者がいるのか？

1 回答者について

1) 性別

- 「男性」436人(67.5%)、「女性」130人(20.1%)で、前年度と同様に男性の割合が高い状態が続いている。「無回答・無効回答」80人(12.4%)が、前年度と比較し大幅に上昇している。今年度新たに、アンケート期間中「読書通帳に関するアンケート」を同時に実施したため、回答者は複数枚のアンケート用紙に回答をすることとなり、それが利用者の属性を記入する裏面への回答に至らなかった要因の一つであると考えられる。(第11表・第26図)

2) 年代

- 「70代以上」が142人(22.0%)で最も多く、「19歳以下」が27人(4.2%)で最も少ない。年代が上がるにつれて回答者数が増加する傾向が表れている。世代別傾向は前年と比較し、大きな変化は見られない。(第12表・第27図)
- 男女別に見ると、「40代」までは女性の比率が高く、年代が上がるにつれ徐々に男性の比率が高くなっていく傾向がある。(第12表・第28図)

3) 職業

- 「無職」173人(26.8%)が最も多く、次いで「フルタイム勤務(会社員・公務員)」151人(23.4%)が多い。(第13表・第29図)
- 男女の回答率に倍以上の差があった項目は、「自営業」(男性12.8%、女性5.4%)、「専業主婦・主夫」(男性0.5%、女性18.5%)、「無職」(男性35.3%、女性14.6%)、「学生」(男性8.5%、女性19.2%)である。(第13表・第30図)

4) 住所

- 県内在住者が80%以上を占めている。この割合は前年と比較し約10%減少しているが、これは、無回答・無効回答の増加が影響していると考えられる。また、全体における内訳では、横浜市在住者が70%以上を占めており、この傾向は前年と比較しても大きな変化はない。(第14表・第31図)
- 県内在住者の内訳では、前年と比較し横浜市が5.0%増加したが、全体の比率傾向は大きな変化が見られなかった。また、男女別でも大きな傾向の違いは見られなかった。(第15表・第32図・第33図)

2 利用頻度について

- 利用頻度は「月に数回」278人(43.0%)が最も多く、次いで「年に数回」158人(24.5%)が多い。この傾向は前年と同様である。(第1表・第1図・第2図)
- 男女別の利用頻度では、男性の約70%が月に数回以上利用しているのに対し、女性は約40%にとどまっており、男性の利用率の高さを表している。(第1表・第2図)

3 来館目的について

- 「個人的な利用（趣味・自習）」（65.0%）が最も多く、前年と変わらない傾向を示している。（第2表・第3図・第4図）
- 「仕事上の利用」（13.0%）は前年よりわずかに減少している。（第2表・第3図）
- 利用しているコンテンツでは「図書」が最も多く37.2%、次いで「新聞・雑誌」16.1%となっているが、「音楽・映像資料」は前年度より約3%減少した。（第2表・第3図）
- 利用しているサービスでは「座席の利用」（12.2%）が前年より約3%上昇しているが、これはアンケート実施期間中に近隣の横浜市中央図書館の休館日と重なったことも一因であると思われる。（第2表・第3図）

4 県立図書館の選択理由について

- 「静かな環境だから」が最も多く選択された。回答者の56.5%が選択し、男女ともに最も多く選択された項目である。これは前年と同様の傾向である。（第3表・第5図・第6図）
- 「専門的な資料があるから」は回答者の42.9%が選択しており、県立図書館の資料収集方針が反映されている結果と考えられる。（第3表・第5図）

5 利用場所について

- 利用場所の上位は「閲覧室1階（貸出カウンター側）」43.8%、「閲覧室2階」31.3%、「新館3階かながわ資料/新聞・雑誌室」25.4%となっており、前年の傾向と変わりない。（第4表・第7図・第8図）
- 前年の選択項目にあった、「相談カウンター」を「閲覧室1階（相談カウンター側）」に変更したところ、3.7%から13.5%へと利用率が大幅に上がった。これは「相談カウンター」との表記では、部屋の利用ではなく直接相談を行った利用者のみ選択する項目と判断された可能性が考えられる。（第4表・第7図・第8図）
- 「新館3階かながわ資料/新聞・雑誌室」の利用率が昨年の20.2%から25.4%に上昇した。利用場所を名称ではなく場所で認識しているケースを考慮し、前年の選択項目「かながわ資料/新聞・雑誌室」に場所を明記したことも影響していると考えられる。（第4表・第7図・第8図）
- 回答者の選択率の低かった利用場所は「展示コーナー」4.3%、「生涯学習情報コーナー」2.3%、「女性関連資料室」2.9%、「セミナールーム・多目的ルーム」1.9%であった。なお、調査期間中に開催された講座は「大人の自由研究応援講座 かながわ資料を探す」（参加者10名）であり、実施されていた企画展示は「ラグビー×神奈川」である。（第4表・第7図・第8図）
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「新館3階かながわ資料/新聞・雑誌室」（男性28.4%、女性13.1%）、「全国市町村史資料のコーナー」（男性3.2%、女性10.8%）、「女性関連資料室」（男性1.1%、女性7.7%）、「セミナールーム・多目的ルーム」（男性1.4%、女性4.6%）である。（第4表・第9図）

6 利用の成果（アウトカム）について

- 30%以上の回答者に選択された項目は、「研究や調べものが進んだ」36.8%、「知識教養が深まった」34.7%、「余暇を有意義に過ごせた」30.2%である。（第5表）
- 前年に引き続き、最も多く選択された項目が「研究や調べものが進んだ」（36.8%）であることは、基本理念である「新たな『知』を育む『価値創造』の場」としての役割が果たされていると考えられる。（第5表・第10図）
- 男性に最も多く選択された項目は「研究や調べものが進んだ」（40.4%）であり、女性に最も多く選択された項目は「余暇を有意義に過ごせた」（34.6%）であり、前年と変わらない結果となった。（第5表・第11図）

7 満足度について

- 「全般的にみた県立図書館の満足度」について（第6表）
 - 「満足」44.0%となっており、前年の38.9%から約5%上昇した。「どちらかといえば満足」51.0%を合計すると90%以上となり、概ね現状に満足している方が利用しているという傾向である。（第6表・第12図）
 - 男女別であまり違いは見られなかった。（第7表・第13図）
- 「資料やサービスについての満足度」について（第8表）
 - 「満足」「どちらかといえば満足」の合計が70%を超えた項目
「職員の対応」90.6%、「施設・設備」85.4%、「開館日・開館時間」84.1%、「図書」75.1%の4項目。うち、「満足」が最も多く選択された項目は、前年度同様、「職員の対応」50.3%である。「どちらかといえば満足」40.3%との合計からも、最も満足度の高い項目であることがわかる。中央値もこの項目のみ4を示している。（第8表・第14図）
 - 「満足」「どちらかといえば満足」の合計が50%未満の項目
「音楽・映像資料」44.8%、「生涯学習情報コーナーのパンフレット・チラシ」42.3%、「調査・相談」43.0%「生涯学習相談」29.0%の4項目。うち、「わからない」が50%を超えた項目は「生涯学習相談」66.9%、「調査・相談」52.8%、「生涯学習情報コーナーのパンフレット・チラシ」52.6%の3項目となり、認知度の低さ及び利用経験の無さにより評価できない利用者が多いという結果となっている。これは昨年の結果と同様の傾向である。（第8表・第14図）
 - 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」4.5%であるが、「どちらかといえば不満」との合計値は「図書」17.1%が最も高く、昨年同様の結果となった。（第8表・第14図）
 - 全ての項目に於いて「満足」の選択率は女性が高い傾向にあった。「不満」の選択率は9項目中8項目で男性が高かった。（第9表・第10表・第15図・第16図）
 - 男性の回答の中央値は8項目で3。「満足」が40%を超えた項目は、「職員の対応」47.0%のみとなった。（第9表・第15図、第17図～第25図）
 - 女性の回答の中央値は3が2項目、4が7項目。「満足」が40%を超えた項目は、「職員の対応」62.2%、「開館日・開館時間」48.4%、「図書」45.0%、「施設・設備」42.6%の4項目であった。（第10表・第16図～第25図）